

11月20日 滋賀県・長浜市の防災訓練 監視行動の報告

住民50名の小規模で簡易な訓練 事故の深刻さからかけ離れている

安定ヨウ素剤を先に配布して、問診なしで一般説明だけ (事前配布が可能で安心)

11月20日に、滋賀県と長浜市の主催で防災訓練が行われ、視察・監視に行きました。美浜原発で事故が発生し「長浜市の一部で避難等の措置を要する水準にまで空間線量率が上昇」したとの想定ですが、事故のシナリオや放出放射能の量などは何も示されていません。

今回の訓練では、住民の参加は木ノ本地区からわずか50名ほどでした。防災関係機関として、市と県の職員、医療機関、関電、警察、消防、自衛隊、内閣府、原子力規制委員会等から約280名が参加しました。訓練内容は、安定ヨウ素剤の配布、スクリーニング・除染のみで、避難先への移動等はありませんでした。訓練は小規模・簡易で、事故の深刻さからかけ離れたものでした。

◆安定ヨウ素剤の配布訓練：「問診」なし。事前配布が可能であることを示している

訓練は、一時集合場所になっている木ノ本小学校の体育館で8時から行われました。市の職員等からの説明の前に、安定ヨウ素剤に見立てた非常食が配布されました。同時に、問診票、同意書、スクリーニング測定票等の資料も渡されました。長浜市立病院の薬剤師が、効能や服用のタイミング、副作用等について説明。問診票については市の職員から、3つの項目^{*1}の一つでも当てはまる場合は、湖北体育館（スクリーニング・除染会場）で医師の問診を受けてもらいますとの説明がありました。ところが訓練では、スクリーニング会場では医師の問診もなく、住民への対応は何もありませんでした。

配布前の「問診」もなく、配布後の「問診」もありません。この訓練のような方法で良いならば、事前配布しても何も問題はありません。事前配布の方が、かえってアレルギー等について医師や薬剤師にゆっくり相談もできます。「安定ヨウ素剤をくばってよ！長浜市民の会」は事前配布を強く求めています。長浜市は市民の声に応えるべきです。

(※1：①甲状腺に疾患がある方 ②ヨードアレルギーといわれたことがある方 ③腎臓の病気がある方)

◆スクリーニング場所の湖北体育館は狭すぎる。訓練は50名、計画では1万人以上が使用

今回の訓練では、スクリーニング場所（避難中継所）として湖北体育館が使われました。車両のスクリーニングは体育館前の狭い敷地で、住民のスクリーニングに使われた体育館は、学校の体育館よりやや広いというくらいです。

訓練に参加した住民は約50名と少数でしたが、滋賀県の避難計画では、最大の避難が生じた場合、湖北体育館をスクリーニング場所として使用するのは10,000人以上となっています（長浜市の避難対象人口は24,500人）。湖北体育館は狭すぎて、スクリーニング場所にはなりません。長浜市のスクリーニング場所は、他に長浜バイオ大学ドームと長浜ICだけです。インターチェンジも含めて、計画に実効性はありません。

◆感染症対策で50名の住民移動にバス9台 全員避難の場合にバスは足りるの？

住民は、木ノ本小学校から、スクリーニング・除染会場になっている湖北体育館にバスと自家用車で移動します。運転手と誘導係はタイベックを着用していました（福井県ではこれはなし）。約50名の住民は、9台のバスに分乗。バスは複数のバス会社から出ており、小型・中型バス、自

衛隊のバスも参加していました。感染症対策で、1台に5～6名の乗車でしたが、長浜市民約24,500名が避難する場合に、バスは手配できるのでしょうか？

◆車両の除染：水なしで、ウェットティッシュで拭くだけ

車両のスクリーニング・除染訓練は、湖北体育館前の狭い場所で行われました。車両はゲート型モニターを通過し、職員がワイパーと車両の後部窓の下を測定し、基準値以下なら終了。場所が狭いためか、体育館内でスクリーニング・除染を受ける住民を降ろした後、バスは道向この湖北支所の駐車場で待機していました。



9台のバスはいずれも基準値以下で、基準を超えたのは、警察のパトカー1台と住民の車両1台だけという想定です。警察車両は、なぜか右側タイヤだけが基準値超え、住民車両はワイパー部分だけが基準値超え。除染は、ウェットティッシュと乾いたキッチンペーパーで、該当部分を2～3回拭き取るだけなので数分で終了しました。

福井県の訓練でもそうでしたが、水なしの簡易「除染」ばかりです。そのバスに乗って避難先に行く住民の被ばくが危惧され、避難先に汚染を持ち込むことにもなってしまいます。

◆体育館での住民のスクリーニング：福井・国の方式とは異なり、住民全てに全身検査

住民のスクリーニングは、国のマニュアルとは3つの点で異なります。①住民全員にスクリーニングをする、②13,000cpm以上を有意な汚染とする、③線量の測定記録を本人に渡す。

体育館に入ると、▽全員がゲート型モニターを通過します。▽13,000cpm以上の人は、GMサーベイメーターで頭から足先まで前面、背面をくまなく測定し、特に線量の高い部分を特定。▽40,000cpm未満の人は記録用紙を持って相談場所で説明を受けます。▽40,000cpm以上の人は除染場所へ移動。除染場所では記録用紙を見て、線量の高い部位を再測定し拭き取り、また衝立内で服を着替えて再測定。線量が下がっていたら、記録用紙を持って相談場所へ移動します。記録用紙は複写式になっていて、1枚目をはがして本人に渡し、写しを保管するやり方でした。

丁寧な方法ですが、体育館内も狭く、ここで多くの住民の検査は不可能です。

◆原発事故と放射線の影響を小さく見せようとする講習会

※ 住民スクリーニング実施中の9時43分に「美浜原発からの放射性物質の放出は止まりました。この体育館は通常の線量ですので、落ち着いて行動してください」とアナウンスが流れました。7時に屋内退避が始まって、わずか3時間弱で事故は収束したことになります。福島原発事故と比べると、あまりにも楽観的な事故想定です。

※ スクリーニング終了後には、湖北支所で講習会があり、途中から参加しました。市の担当者は、一時移転の基準である $20\mu\text{Sv/h}$ は「病院のCTや自然放射線と比べても非常に低い」「屋内退避は木造家屋でも被ばくは十分低減できる」等と説明していました。しかし、一時移転の基準は通常の放射線量の400倍、木造家屋では内部被ばくは3割程しか低減できません。意図的に放射線の影響を小さく見せようとする話でした。避難先については、草津市等の市の名前を言うだけで、具体的な避難所については触れませんでした。

講習会終了後にバスに乗り込む住民に、戸別訪問で配っているチラシを渡しました。すると「原発がなければ避難もいない」と答えてくれる方がありました。

2021.12.11 防災訓練監視に参加した、避難計画を案ずる関西連絡会と長浜市民